

第1回「e-ふくちやま」事業のあり方懇談会 概要

日時：平成26年8月11日（木）

午後2時30分から

場所：市民交流プラザふくちやま

- 1 委嘱状交付 12名の委員に委嘱状を交付（松山市長）資料1名簿参照
- 2 市長あいさつ
- 3 委員紹介（事務局：松本情報推進課長から）
- 4 懇談会の運営について
 - ・座長、副座長の決定 → 座長 芦田委員（成美大学副学長）
副座長 加畑委員（ポリテクカレッジ京都）
 - ・運営上の確認事項 → 資料2について異議なく確認された

5 意見交換

・「e-ふくちやま」事業の現状

事務局から資料3に基づき現状説明をした上、各委員の意見を聞いた。主な発言については以下のとおり。

（委員）

資料によると現在月に500円の使用料を6,000円に値上げしないと事業を継続できないという意味か？この値段では、市民からの理解を得られないと思う。具体的にどれくらいの負担が必要となってくるのか？

→（事務局回答）

この数字については、公設公営で赤字を出さずに事業費に見合うようにした場合、受益者負担で、収支を0にしようとするれば月額で6,600円の負担が必要と試算したものだ。これ以下の金額でいくと、これまでと同様に市が不足分を事業費として補っていく、実際は、そこまでの負担は難しいので、それは今後どのようなようになるかは分からないが、ただ、収支を「0」にしようと思うと6,600円の負担が必要であると試算したもので、この金額になるというものではない。当初は運営経費に対して月額1,000円あれば合併特例債なども活用する中で何とかやっていけるのではないかとということであったが、それが500円になって更に厳しくなった。

（委員）

そもそも平成18年から検討されて国の事業も活用してやってきているが、単価的に無理があったのではないかと感じている。少し計画に無理があったのではないかと。このような事を批判しても仕方ないとは思いますが。

後で教えて欲しいが、第4次総合計画に地域情報化でネットを通じて防災、教育、産業、観光、医療に活用すると一部資料のなかにもあるが、その達成状況で46億円のうち20億円をそちらに使用していれば別に赤字でもないのでは。

(コンテンツの達成状況について次回報告すること：座長)

民間でできることは民間でしたらよい。インターネットは無理があるのでは。市の出先機関はすべて市の独自回線で接続しているのか？NTT回線の利用は？

→(事務局回答) 利用している施設もある。

(委員)

市民協働で市に関わっていて、財源をどのように使っていくか見直さなければならぬような赤字なのでいけないのではないかなど。4年ですいぶん数値の見誤りがあったと思う。そういうことを含めて民間企業が10年とか30年というような長いスパンでどう展望されているか知りたい。

(委員)

ずっと赤字が続いていて、民間のビジネスモデルであればとっくに破綻している。できるものはやはり民間に移すほうが良い。なるべく持たないほうが良い。持てば持つほど大変だ。

(委員)

情報格差の問題だが、「e-ふくちやま」に取り組んで地デジ化の対策に取り組んでこられた。光ファイバーに関して最近では、LTEとか無線通信の発達がすごいので、これから先の見通しをたてるのは難しい。事業当初に今の事態をどの程度予測できたか仕方ないかと思うところもある。

LTE エルティイーイー【 Long Term Evolution 】 3.9G / Super3G

第3世代(3G)携帯電話のデータ通信を高速化した規格。第4世代(4G)への橋渡しという意味で「3.9G」(第3.9世代)とも呼ばれるが、4Gの一種に含める場合もある。一部の通信機器メーカーや通信事業者は、これらに対応した製品やサービスの名称に「4G」という表現を使っている。

(委員)

専門の方、利用者の方等々意見を聴かせていただいて、今後のあり方を慎重に決めていきたいと思っている。

(委員)

ブロードバンドとデジタル放送の送信を別々に考えて、ブロードバンドは、できるだけ経費のかからない方向を考える。

テレビ再送信は、止めるわけにはいかないの何か付加価値をつけて、BS放送とかCS放送などをつけてはどうか。これは経費のかかることなのでそちらの方のことを考えながら、とりあえずブロードバンド環境をできるだけ経費の安いほうにもっていき、2つを切り離さなければならない。

これを両方ともに良いことをすると64億円かかると聞いた。経費節減で有線テレビを止めるわけにはいかない。4500世帯があるということなので、この2つを切り離して今後経費の削減を含めながら検討していけばよいのではないかと思う。

(委員)

地デジ化について、格差をなくそうということで公共がやらなければという総務省の通達ではなかったかと思う。そういう意味で46億かけて山ばかりの福知山の隅から隅まで出来たのであれば、すごく優秀で安くできたのでは。

今後、市でやっていくことに関しては、マイナス面が多くなってくるので税金の使い方を問われたりする。このような話もしていかなければならない。民間にどんどん委託して行政の負担を減らしていく方向を考えていく、それならば民間がどこまで計画的に思っているのかを聞くことが必要。知らないとなら我々も次にどうしようかと考えられない。

前回の勉強会ではなかったが、資料にアセットマネジメントのことがついているということは、市は、今年からこの話を何回も説明に来られて地元にある建物をどうにかしなさい、地元でどうにかなりませんか。市の今の考え方がすごく出ていると思うのでそれも含めるとこの「e-ふくちやま」もハコモノと同じ扱いになってくるのかなど。いずれは市から手が離れて地元でもある程度しっかりしなさいと。

我々も負担金をたくさん払ってでもやらなければという気はあるのでそういうような感じでまず勉強を我々がすること。疑問に関する回答も市からいただいてそれから今後の会議にしていくべきじゃないかと。

(委員)

私は■■■県の人間で、他市事例で紹介されているA市とB市とC市も良く知っている。

A市については直近で民間事業者さんへの移行に委員として関わり、民間への移行ということで決定した。おそらく近畿でも有数の判断をされたのではないかと。

B市についても公設でかなり活発に使おうという動きをされている。

福知山市について(使用料が)安い、市民は市の努力と議会の努力で安くしてもらって恩恵を受けていると感じる。ただ、これは当初は良いが、将来未来を考えた時にはどこかにゆがみが出てしまう。

福知山は、京都の交通の要衝。一番環境の良い場所にあると。

安かろう悪かろうという設備に変えてしまうのではなく、皆様の意見と知恵を拝見しながら超ハイブリットにいかないと。更にここ福知山に住み移ろうという風な施策とあわせるような施策に近づければ良いと思う。

(この分野は) 技術革新がとても早い。行政に専門職・スペシャリストがいれば別だが、無線や携帯は一年でどんどん変わってみんながついていけない状況になる中で、公が担う時代ではない。

情報格差を是正したという点ではものすごく努力された。その形を良い形で引き継ぐために市民の協力が必要。今、皆さん民間に動かすべきだという意見があり、情報化に対して理解ある市民のみなさんだと思った。

前向きに、市の施策に連動するようなことになっていけばと思い、そこに寄与させていただければなと思います。

(委員)

庁舎間ネットワーク、イントラネットの部分は必要。個人利用に係る部分とは分けて、役割ごとに見直しすべき。

すごく格安のサービスだが、何故止める方がいるのか。どのような理由でやめられるのか。

→(事務局回答) 具体的な理由までは把握できていない。インターネットと固定電話と携帯電話とセットで売られている民間企業がありトータルとしてそちらの方が安いという流れがある。

(委員)

これまで、京都府のデジタル疎水、〇〇市のIRU、△△町の有線放送の設計に関わってきた。▲▲市の民間事業者との交渉も。

デジタル疎水の例でいうと、京都府のデジタル疎水が光を広げますよと言ってA社が全部光を入れたのが事実。光ファイバーを入れるために官が一所懸命引っ張ることによって民が動いた。この事実は大切。それがないと中々民間はことをしない。儲からないことはやらないので、いくらか利益がある形でどう持ってくるかが一つ。

〇〇市はIRUといって、線は全部市で敷設し、それを市から業者に貸し出す。A社が借りて今現在事業をしている。

〇〇市ではA社のサービスそのままの値段を支払われている。ここにあるような数百円、数千円というような額ではない。利用者は全てまともにA社のサービス費用を支払い、それにプロバイダ料金を支払い利用している。

〇〇市は、■■億円ほど事業にかけている。■■億は合併特例債を当てている。

A社はそれを借りて自分で壊れたところは修理する。それは全部〇〇市の■■億円に入っていくという構図がうまくできている。これは成功したなと思っている。官が

引っ張ったからこそ民が動けた事例。

△△町は■■億円で自前で線を引く、光ファイバーの線を各家庭に入れるのも全部自前でやった。ところが、今度は民間が入れない。町が数千円でテレビを配信して10メガのスピードでいくら100メガだったらいくらというプランなので、民間が入ってくる余裕が無い。官がやりすぎると民は動かないという事例。

民間は利益がないと入ってこないのだから、如何にして民間に入ってきて貰って上手く移行させるかという良い例がここに来るのかなと思いつつ楽しみにしている。

福知山で見直しをするということは、いい機会だと考える。適正な金額で魅力をどう出すかを考えるべき。例えば高齢者対策や鳥獣害対策に活用できないか。

有線（光ファイバー）はもはや古い。無線の活用を考えればよい。

6 その他

- ・ 専門部会の委員について座長の指名により決定。
- ・ 専門部会への付託事項について、各委員の発言を踏まえ、座長により以下のとおり取り纏め。
 - ①事業運営手法の検討・検証
 - ②他市の事例研究
 - ③民間事業者の参入要件や提供サービス内容等の確認
 - ④望ましい事業運営方法等の提案
 - ⑤その他検討に必要な事項（利用者・市民との意見交換）